

(様式1)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	19	学校名	宇都宮市立御幸小学校
----	---------------	------	----	-----	------------

## 平成29年度 学校経営計画

### 1 教育目標

#### (1) 基本目標

心身ともに健康で、よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち、誠実で思いやりがあり、豊かな心を持った児童の育成を目指す。

#### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・素直で、思いやりのある子（やさしく）
- ・自ら考え、進んで学習する子（かしこく）
- ・健康で、ねばり強い子（たくましく）

### 2 学校経営の理念

子どもは未来からの留学生である。変化の激しい現代において、将来人間性豊かな社会の構成員の一人として、法と礼を重んじ知を生かし、健康でたくましく生きる自立した子どもの育成が学校の使命である。初等教育はその基礎を築く段階であり、子どもたちの個々の発達に応じて一人一人が確実に成長するように努めなければならない。

将来に夢をもち、自分の可能性を信じて主体的に学び活動する子どもを育成するには、子どもの成長への意欲を支え、子どものよさに目を向け伸ばしていこうとする前向きで元気な教職員と、保護者や地域の方々との信頼関係に基づいた連携・協力による子どもたちへの支援が必要であると考えます。

学校においては、教職員一人一人がそれぞれの持ち味や専門性を生かし主体的に学校経営に参画し、組織としての学校の機能が発揮できるように、全教職員同一歩調の下、具体目標の具現化に努めること。また、日々の教育活動をとおして、地域の中にしっかりと根ざし保護者から信頼されるように努めることが大切である。

### 3 学校経営の方針

#### (1) 豊かな人間性の育成（やさしく）

児童一人一人が心のこもったあいさつができ、また、互いを認め合い生き生きとした生活が送れるようにするため「豊かな心育成全校運動」を推進する。

(2) 確かな学力の向上（かしこく）

基礎・基本を重視し、確かな学力の定着を図るため「チャレンジ学習全校運動」を推進し、めあてに向かって全力で取り組む児童を育成する。

(3) 健康で安全な生活（たくましく）

健康への意識向上を図るため「元気っ子活動全校運動」を推進する。

(4) 教職員の資質の向上

使命感に徹し、協働体制のもと各自が特性を発揮し資質の向上を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

テーマ 自立 ～よりよい判断をし、学習や学校生活に意欲を持って取り組む子どもの育成～

**4 今年度の重点目標**（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

(1) 学校運営

地域や中学校園との絆を深め、地域人材の支援を得て体験活動を重視し、未来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する。

(2) 学習指導

- ・「わかる授業」を通して、基礎的・基本的な学力を定着させる。
- ・コミュニケーション力を育成するために、話し方・聴き方の指導、集団での学び合い活動を充実させる。
- ・言語力の基礎を育成するために、音読や読書活動を充実させる。

○家庭の協力も得、めあてに向かって自分から学習に取り組めるようにする。

(3) 児童生徒指導

- ・思いやりと優しさを持って行動し、自他のよさを認め合い自己肯定感を高めると共に、自分の思いや気持ちを言葉で伝えられるようにする。

○いじめを絶対許さない態度を育てる。

○心のこもったあいさつができる児童を育成する。

- ・きまりを守る児童を育成する。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

○食事のマナーを大切にしながら、好き嫌いなく食べる努力をする児童を育てる。

・運動や健康に関心を持ち、自ら進んで健康力を高めていこうとする。

## 5 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※ 様式2～4参照

## 6 特色ある学校づくり等に関する取組

### (1) 育てたい資質・能力

①課題解決のために、地域の人・自然・文化に自ら関わり、見通しをもって、主体的に学ぼうとする態度を育てる。

○②友達と協働し合う活動を体験し、互いのよさを認め合い強調し合う心や、地域の人々との触れ合いを通し、感謝の心・社会性（コミュニケーション）や豊かな心を培う。

○③豊かな体験活動から得た知識や技能をもとに、積極的な表現力をもって、自分にできることを実践する態度を育てる。

④地域の理解を通し、地域に働きかけたり地域に貢献しようとしたりする意欲や身近な環境づくりを実践しようとする態度を育てる。

### (2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇，○は平成28年度の最重点目標の指標となる活動

◇①学校・家庭・地域の連携により豊かな心を育てる活動を推進する。

【重点活動名】「豊かな心育成全校運動」

○あいさつ運動の奨励（自分から先にあいさつ） ・学級経営の充実 ・道徳教育の充実

○いじめを許さない態度の育成 ・出前授業による触れ合い学習の展開 ・正しい言葉遣いと豊かな表現力の育成 ・地区内工業団地との連携 ・学校・学年・学級通信による親への啓発

◇②基礎・基本的な学習内容の確実な定着と積極的な表現力の育成によって、生き生きと意欲的に頑張る子どもを育てる。

【重点活動名】「チャレンジ学習全校運動」

○ぐんぐんタイムの充実(漢字・計算・音読・視写) ・家庭学習の習慣化・漢字力，計算力検定（チャレンジテスト）の実施 ○豊かな言語力の育成 ○読書活動の充実（読み聞かせ月1回全クラスで） ・学習支援ボランティアの活用（体験的活動の充実）

◇③地域の支援や体験活動を重視し、たくましい心を育てると共に、自主的な運動を通して丈

夫な体を育てる。

【重点活動名】「元気っ子活動全校運動」

- 家庭と連携した生活習慣作り（早寝・早起き・朝ごはん） ・各種運動検定の実施
- 食育（朝食，お弁当の日）との連携 ○給食指導の充実
- ・地震等の災害を想定した引き渡し訓練の実施

## 7 本市の重点施策・事業と関連する取組

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

### ①基本的考え

魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力により、地区内工業団地企業との連携を図り、出前授業や見学・体験学習を積極的に取り入れ、社会性や職業観を育成する基盤づくりに努める。

### ②主な取組

- ・自然とのふれ合い活動，地域とのふれ合い活動、出前授業によるふれ合い学習
- ・「みゆき学習スタンダード」との関連を図り、プロジェクト毎に充実した活動を展開し、効果を上げるよう努める。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

### ①基本的考え

「自立」について、児童・生徒指導や学習指導の視点から捉え、自己有用感・判断力・自己決定力・家庭学習・授業力向上等について研究し、地区内の小中学校が共通理解のもとに進め、スパイラルに高めていく。

### ②主な取組

- ・小中相互乗り入れ授業（国・算・英・実技教科）
- ・小6 進学先中学校訪問
- ・あいさつ運動

(様式2)

校種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	19	学校名	宇都宮市立御幸小学校
----	-----------------	------	----	-----	------------

## 平成29年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 国・県・市の学力調査などから

##### ①国語

学力調査などから、「書くこと」の正答率が低い傾向が見られた。特に「意見をもとに招待状に入れるべき要素の選択をする」、「設問の条件を満たして書くこと」、「資料から読み取った事実をもとに、自分の意見を書く」などが正答率が低かった。また、「読むこと」の中では「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」力が弱い。漢字の読み書きについては概ね定着してきているが、定着に個人差が見られる。1年生から3年生については、普段の授業の中で、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取る力や段落相互の関係を押さえながら読んだり、要点を確認しながら読んだりすることが苦手である。

##### ②社会

6年生で3観点ともに市の平均をやや上回った。6年生では歴史に関する興味は高いが、国土の様子や農業に関する知識や理解が低い。

##### ③算数

量と測定の領域が4,5年生で市の平均をやや下回った。他の領域では市の平均をやや上回った。数と計算については全学年とも概ね定着してきているが、個人差が大きい傾向が見られる。また、数学的な考え方については全学年で低い傾向にある。

##### ④理科

「生命・地球」の領域が市の平均を下回った。また、「観察・実験の技能」の観点が市の平均をやや下回った。しかし、3年生から6年生までにおいて理科に対する興味関心は高い。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

「算数が好き」では、市平均を上回っている学年が多くなっている。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」では、全学年で市平均を下回っている。しかし、「先生や友達の話最後まできちんと聞いている」は市平均を上回っている学年が多いことから、学習への興味・関心を高める工夫が必要と思われる。平日・休日ともにほとんど本を読まない割合がどの学年も約3割と高い。家庭との連携をさらに進めていく必要がある。

### (3) 授業等への取組状況から

落ち着いた学習態度で授業に臨んでいる児童が多い。教師が、児童が分かる授業の展開や支援の必要な児童に対しての配慮を通して、学習に対して前向きに取り組む児童が増えている。また、全校一斉の漢字・計算のチャレンジテストに向けて、自己達成目標を決め、根気強く学習に取り組む児童が増えている。今後も継続して基礎基本の力を伸ばしていく。

## 2 今年度の重点目標

- 分かる授業に努め学習への関心・意欲を高めるとともに、漢字・計算・読解・音読・視写を中心に反復学習を徹底させ、基礎学力の習熟を図る。
- ・コミュニケーション力を育成するために、話し方・聞き方の指導、集団での学び合い活動を充実させる。
- ・家庭と連携を図るため「みゆき学習スタンダード」の指導を強化し、保護者への周知を図る。

## 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆、授業における取組のうち重点は文頭に○）

### (1) ☆基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・ぐんぐんタイム（火・木）と音読・視写の時間(水)を利用した漢字・計算・音読・視写
- ・読解の反復学習を徹底する。
- ・漢字・計算チャレンジテストの実施と称賛活動（7・11・2月）

### (2) 言語活動を通じた集団での学び合い活動の充実

- ・敗を恐れず安心して学び合う学級風土づくりを目指して、「話し方・聞き方」・「話し合いの仕方」の指導を充実させ、コミュニケーション力を高める。
- ・音読指導・発表指導を通して表現力を高める。

### (3) 主体的な学習態度の育成と家庭との連携

- ・みゆき学習スタンダードの指導強化

☆○基本的な学習態度や学習技能を身に付けさせるための指導強化月間の実施(6,11月)

☆○家庭学習の習慣化のための保護者会・学級だより等での保護者の理解と協力への働きかけをする。

### (4) 読書活動の推進

- ・週1回の図書室利用の時間を活用し、本を借りることの習慣化を図る。
- ・様々な本を楽しみ、活用できる児童を育てるために、読書まつりを中心に図書館行事の充実を図る。
- ・家読を推進し、読書への関心を高めるとともに豊かな心を培う。

### (5) 地域との連携・協力

☆「街の先生」などのボランティアや企業等による出前授業による学習支援の実施（通年）

(様式3)

校種	小・中 どちらかに○	学校番号	19	学校名	宇都宮市立御幸小学校
----	---------------	------	----	-----	------------

## 平成29年度 児童生徒指導に関する取組

### 1 児童生徒指導上の主な実態

#### (1) 問題行動等調査から

##### ① 暴力行為

暴力行為は0件であったが、トラブルや喧嘩は発生していた。意見の食い違いや些細な勘違いから言い争いになったり、手を出してしまったりすることがあったので、今後とも細かく見守り、適宜助言や指導を行う必要がある。

##### ② いじめ

発生したいじめは3件であり、すべて解消した。年4回いじめに関するアンケートを実施し、問題やトラブルなどの情報があった場合、その都度、学級担任、学年スタッフ、児童指導主任が連携して、1つ1つの対応にあたった。

##### ③ 不登校

不登校児童は5名で、前年度より2名増加したが、昨年度、不登校であった児童が登校できるようになった反面、新たに不登校となってしまった児童もいる。これまでも、校内支援委員会を開いて方策を練り、保健室等の学校資源の活用や、外部機関への相談など行ってきたが、今後も丁寧な対応が必要とされる。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

重点目標に係わる質問「学校で先生や友だちなどにあいさつをしていますか」、「ことばづかいに気をつけている」の回答では、6学年中4つの学年で、市の肯定割合を上回った。下回った2つの学年はいずれも上学年である。また、「だれに対しても、思いやりの心を持って接している」の回答では、6学年中3つの学年で市の肯定割合を下回った。発達段階においても、特に上学年においては、自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養が必要とされる時期であるので、あいさつ運動、生活目標の徹底、およびいじめゼロ強調月間を通して、あいさつや正しい言葉遣いの重要性を伝えていき、思いやりをもって行動する姿勢を養っていく。さらに、「自分や身の回りの人々の安全に気を配り、安全に行動している」の回答においても、市の肯定割合を上回ったのは、6学年中3つの学年に留まった。日頃より、自分

で自分の身を守ること、周囲に気を配ることを意識できるよう声掛けをしていく。

(3) 学校生活の状況から

明るく大らかな児童が多く、集会等でも静かに話を聞くなど、全体的に落ち着いて学校生活を送ることができている。しかし、他者の気持ちを考えずに言葉を発したり、行動したりすることでトラブルが発生することも少なくない。また、あいさつや言葉遣いに課題のある児童も見受けられる。すべての人が気持ちよく生活するためには、基本的な生活習慣や、相手を思いやる心が大切であることを辛抱強く伝え、指導にあたる必要がある。

**2 今年度の重点目標**（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○）

- 「相手を思いやる心を持ち、あいさつや正しい言葉遣いができる児童の育成  
—家庭・地域との連携を深め、明るく優しい子を育てる—」

**3 今年度の取組**（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

(1) あいさつ・正しい言葉遣いの励行

- ☆○あいさつ強化月間の実施（親切委員会による校内放送での呼びかけを行う、生活目標をあいさつのめあてに1か月間固定し全職員で一貫した指導を行う）【6月・10月】
- ☆○全校集会おけるあいさつ指導の実施（保護者、来校者、登下校の安全を見守ってくださる地域の方などお世話になっている人には必ずあいさつをするよう言及する）
- ☆○親切委員会を中心とした朝のあいさつ運動の実施【毎週金曜日の朝】
- ☆○地域の方々と連携した全職員によるあいさつ運動の実施【毎月1回】
- ☆○各クラスであいさつに関するロールプレイングの実施【長期休業明け年3回】
- ☆○授業中における正しい言葉遣いの指導強化【通年】

(2) いじめを許さない態度の育成

- ☆いじめゼロ強化月間の実施（黄色リボンを配布する、休み時間の巡回をする）  
【5月・9月】
- ☆いじめアンケートの実施【5月・7月・9月・11月】
- ☆企画委員会主体のいじめゼロ集会の実施【10月】
- ☆各クラスにおけるいじめに関するDVDを使用した授業の実施【9月】
- ☆いじめゼロ標語の作成および掲示【9月】

(3) 望ましい集団作りによる思いやりの心の育成

☆道徳の時間における思いやりの心を育てる指導の充実【通年】と授業公開【年1回】

- ・互いの良さを認め合える学級集団作りのための学級目標の設定及び活用【通年】
- ・縦割り班共遊（ふれあいタイム）の実施（6学年を中心に計画を立て、活動の内容やルールなどを話し合い楽しく活動する）【通年】
- ・縦割り班清掃の実施（班編成を年3回行い班ごとに清掃分担を決めて協力しながら活動する）
- ・クラスで遊ぶ時間「わくわくタイム」の設定【通年】
- ・Q-Uテストによる学級状況の把握と学級経営への活用【6月・11月】

(1) 個に応じた指導の充実

☆教育相談週間の実施【6・11月】

- ・スクールカウンセラーの有効活用による児童の理解と対応【随時】
- ・児童に関する情報交換の実施（ブロックによるトーキングタイムを行う、年度始め配慮を要する児童について共通理解を図る）

☆個々の情報の記録蓄積を目的とした学習情報システムにおける「日々の様子」の入力と、「鬼怒学校園引継ぎシートA」の作成

(2) 基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成

- ・週番（生活当番）による月別児童指導計画に基づいた生活目標の設定と徹底【通年】

☆集団生活における規律ある行動の育成（特に「時間を守る」「人の話をしっかり聞く」ことの大切さを呼びかける）【通年】

☆「みゆきよい子の1日」の配布・教室掲示【4月】

○全校集会における正しい自転車の乗り方の指導【7月・12月・3月の長期休み前集会】

(3) 家庭・地域・関係機関との連携

☆「魅力ある学校づくり地域協議会」「保護者会」における学校理解のための説明と協力依頼【随時】

- ・地域協議会との連携推進【年4回】
- ・学校だより・学年だより・学級だよりの発信および懇談会を通して家庭・地域との連携【通年】
- ・スタンダードダイアリーの活用による生活習慣の見直しと保護者との連携【随時】
- ・地域の高齢者との交流会などのボランティア活動の実施【年5回】

(様式4)

校種	④ ・ 中 どちらかに○	学校番号	19	学校名	宇都宮市立御幸小学校
----	-----------------	------	----	-----	------------

## 平成29年度 健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

### 1 健康（体力・保健・食・安全）に関する主な実態

#### (1) 定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

- ・体位は、ほとんどの学年が市や全国の平均を上回っている。う歯の罹患率は全国の平均とほぼ同等だが、全国の平均を上回る学年もある。そこで、う歯を保有する児童に対し、個別指導や治療勧告をし、家庭との連携を図っている。
- ・学年によって差異はあるものの、肥満傾向にある児童が多い。
- ・平成28年度実施のうつのみや元気っ子体力チェック(8項目)の結果から、本校の児童は、市や全国と比較すると、劣っている項目が多々あるということが分かる。ただし、平成27年度と比較すると、多くの学年で、各種目の値が改善された。特に、上体起こしや反復横跳びにおいては顕著である。
- ・各学年の全体的な体力・運動能力のレベルとしては、市や全国と比較すると、ほぼ同等であるといえる。ただし、4年生男子(新5年生)は、体力・運動能力のバランスは今一つで、弱点の克服(特に握力・長座体前屈・2.0mシャトルラン)が必要である。また、3年生女子(新4年生)と5年生女子(新6年生)については、体力・運動能力のレベル、体力・運動能力のバランス共に劣っている。

#### (2) 元気っ子健康体力チェックのアンケート及び国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから(※体力・保健・食・安全について、それぞれ記入する。)

- ・運動頻度の選択肢別に、男女ともにほとんどの学年において、「ほとんど毎日(週3日以上)」「時々」運動を実施している児童は、体力合計点が高いという傾向がある。また、学校では運動をしているものの、帰宅してからはほとんど運動をしない児童の割合が高い。
- ・「歯みがき」については、各学年にわたって習慣化されている。けれども、「ほとんどしていない」という児童も、各学年1～2%の割合でいる。
- ・「朝食の有無」については、全学年共に、毎日食べるという児童が多い。一方で、全く食べないという児童については、中学年・高学年になると増加する傾向がある。
- ・「食事の好き嫌い」については、好き嫌いをしている児童の割合が、昨年と比べて減少している。

- ・「食事のマナー(あいさつ・姿勢・おはしの使い方など)」については、肯定的回答をしている児童の割合が高い。
- ・「交通ルールを守る」については、肯定的回答をしている児童の割合が高い。けれども、中学年・高学年になるにつれ、交通ルールを疎かにする児童が増える傾向にある。

### (3) 授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

(※体力・保健・食・安全について、それぞれ記入する。)

- ・体育の授業や体育的行事には、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。
- ・休み時間の外遊びを勧めるために、各クラスに様々な種類のボール(ドッジボール、ディンプルボール等)やドッジビー、長縄などを置いている。その結果、外で遊ぶ児童が増えてきた。一方で、学年が上がるにつれ、外遊びに抵抗を持つ児童も出てくる傾向がある。
- ・校内長縄跳び大会が実施され(クラス対抗にするのではなく、それぞれのクラスの最高記録を目指すという大会方針)、全学級の児童が参加している。八の字型、3分間、できるだけ多くの回数を跳ぶというルールは、どの児童も戸惑うことなく取り組むことにつながっている。この大会をきっかけに、寒い時期にもかかわらず、外で活動する児童が増え、自ら体力向上に努めようとする児童が増えている。
- ・う歯がない児童やう歯の治療をした児童を表彰することで、歯の健康に興味関心が向くようにしている。
- ・様々な方策(月1回の食育だよりの発行、お弁当の日の事前の計画と事後の振り返りの実施、栄養職員の学級訪問、月ごとの食事マナー目標の設定等)により、食育や健康に対する児童の意識の高揚を図ることができている。
- ・集団下校時に教職員が巡回をし、児童が安全に下校できるように努めている。
- ・実施する目的や意味を理解させた上で避難訓練に臨むので、多くの児童が真剣に取り組んでいる。

## 2 今年度の重点目標

- ・食事のマナーを大切にしながら、好き嫌いなく食べる努力をする児童を育てる。
- ・運動や健康に関心を持ち、自ら進んで健康力を高めていこうとする児童を育てる。
- ・体育の授業において、子ども同士が学び合えるような授業が実践できるよう、教材研究を行い授業の進め方を工夫する。

### 3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

#### （1）体力の向上

- ☆元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえた補強運動の充実（通年）
- ☆水泳検定（鬼怒学校園共通）やなわとび検定の実施（7～9月，12～2月）
  - ・昼休み・業間時における校庭の有効活用と，ボール等を充実させることによる運動の習慣化
  - ・各教科・特別活動における養護教諭と連携した保健に関する指導の実施（随時）
  - ・宇都宮マラソン大会参加への奨励
  - ・わくわくタイムの縦割り班遊び（通年）
  - ・長縄跳び大会の実施（12月）

#### （2）食育の推進

- ☆給食指導における「食を大切に作る心」の育成（栄養職員の栄養指導）（通年）
- ☆各教科・特別活動における学校栄養職員と連携した食に関する指導の実施（随時）
- ☆お弁当の日の実施（年2回）
  - ・全校児童の食への関心を高めるために，給食委員会による児童集会の実施（6月）
  - ・食育だよりによる食育の啓発（通年）
  - ・家庭訪問や懇談等を利用した家庭への啓発（4月，7月，9月，12月，2月）
  - ・「食事マナーに関する手引き」を活用した給食指導（月ごとの食事マナー目標の設定）（通年）

#### （3）家庭や関係機関との連携協力

- ☆元気っ子健康体力チェック結果の通知による健康・体力向上の啓発（随時）
- ☆保護者や地域との協力による登下校の安全確保（通年）
- ☆市役所と連携した子ども自転車免許事業や交通安全教室の実施（6月，10月）
- ☆スクールガードと連携した防犯訓練や避難訓練の実施（5月，7月，9月，12月）
  - ・保健だよりによる健康の保持増進への啓発（通年）